



日工株式会社

2023年3月期第3四半期決算説明会

2023年3月3日

登壇者 専務取締役管理本部長 藤井 博

2022年度 3Q決算ハイライト (1)



2023年度 3Q累計実績

(単位:百万円)

3Q(4-12月)	実績	対前年同期	対前年増減率
売上高	27,129	△36	△0.1%
営業利益	367	△660	△64.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	224	△659	△74.6%
受注高	29,217	+1,071	+3.8%

- ▶ AP事業売上高:国内は製品、メンテナンスともに前年同期比減少。中国が遅延していた工事の再開などで大幅に伸長しセグメントでは△2.1%と微減
- ▶ BP事業売上高:製品売上が大きく減少、メンテナンスは増加。セグメントでは△8.7%
但し、今期は4Qに売上集中、通期では前期並
- ▶ 受注高は、その他事業が宇部興機受注額取り込みなどにより前年同期比+44.8%と大幅増となり、全体では前年同期比+3.8%(宇部興機を除くとその他事業+7.8%、全体では△2.3%)

事業環境

AP事業

22年度3Q(4-12月)	実績(万トン)	対前年同期比
合材製造量	2,721	△4.8%
新規合材	697	△7.2%
再生合材	2,023	△4.0%

再生合材比率 74.4%

資料出所:(一社)日本アスファルト合材協会

BP事業

22年度3Q(4-12月)	実績(万㎡)	対前年同期比
生コンクリート出荷量	2,015	△3.5%

資料出所:全国生コンクリート工業組合連合会・全国生コンクリート協同組合連合会

第3四半期の決算の概要についてご説明をさせていただきます。

まず、決算のハイライトです。今期は売上こそほぼ前年並み、横ばいでしたけれども、利益の方は大幅な減益となりました。昨年の9月に業績見通しの下方修正をいたしました。第3四半期の数字は、10-12月の数字はほぼ予定どおりでございます。

今期の利益が前年と比べて下がっている要因ですが、大きく2点です。これは第1四半期の決算説明会以降、同じことを申し上げているんですが、一つは、鋼材価格をはじめとした原材料価格の値上がりが続いて止まっていなかったということ。もう1点は、これは期初には想定していなかったんですけども、われわれのAPのお客様である道路会社様が設備投資を減らされていると、その結果が特にAPのサービスの売上に効いてきているということでございます。



中国(日工上海)が新型コロナにより停滞していた工事が再開し3Q(10~12月)売上高が+63.2%
→P.12 AP関連事業



3Q累計受注高前年同期比+10.7億円(宇部興機受注高17.0億円含む)
受注残高も積み上がる
→P.9 受注高推移、P.10 受注残高推移



モバイルプラント販売台数は前年同期より△1台となるも売上高は9.5億円→11.1億円へ増加
→P.16 その他事業



BPの売上高がダウン、それに伴い営業利益もダウンとなるも受注残高が大きく積み上がる
→P.14 BP関連事業、P.10 3Q末受注残高推移



AP事業国内:アスファルトの値上がりにより道路会社が全般に設備投資を抑制
プラント本体、メンテナンスともに売上高が大幅に減少
タイ:売上高、受注高とも予算対比マイナス
→P.12 AP関連事業、P.13 AP関連事業(内訳推移)



防水板売上高は 建設資材高騰による建設工事延期・遅延により減少
前年同期 6.6億円→3.0億円
→P.16 その他事業

決算のポイントをお話いたします。上の3点は良かったこと、下の2点がよくなかったことです。

中国に関しては、期初は新型コロナの影響を受けまして、工場もしばらく稼働はできなかったんですけれども、その後大幅に挽回をいたしまして、結果的には中国に関しては、今期は前期と比べると非常に良い数字になっております。とりわけ10-12月の数字は、前年と比べると売上が63%伸びたということです。

それから9カ月の累計の受注額です。前年対比でプラス10億7,000万円、また受注残高も積み上がっております。

それから、われわれの成長事業、成長部門の一つでありますモバイルプラントの部門です。前期より売上台数は1台減少いたしましたけれども、売上は順調に伸びております。

それからBPに関してです。第3四半期までは売上がダウンをしております。それに伴って営業利益も減ってはいるんですけれども、今期に関しては、BPは4Qに売上が集中しております。3Q末時点の受注残高が積み上がっているのもその影響ですけれども、通期で言うと前年並みをBPに関しても見込んでおります。

冒頭申し上げましたとおり、AP に関してです。われわれのお客様である道路会社様、アスファルトの値上がりによりまして全般的に設備投資を抑制されております。特にわれわれにとって利益率の高いサービス、メンテナンスの売上が大幅に減少しております。ただ、メンテナンスに関しては、これはいつまでも繰り延べできる話ではないので、来期以降、今期投資が遅れた分については、来期以降それが実現をすと思っております。

それから、モバイルプラントともう一つわれわれの注力事業、成長事業であります防水板の事業です。こちらは逆に建設資材の高騰による建設工事の延期が続きます、今期は第3四半期までで売上が半減という結果になっております。

来2023年度の現時点での見込み



- 今年度末の受注残高過去最高の187億円（前年度比+22億円）の予想増収増益を見込む
- 過去2年間鋼材価格の高騰により利益圧迫されてきたが、鋼材価格はピークをつけたと思われ、材料費の高騰による利益下押し要因はないものと見込む
- セグメント別ではAPは国内が大きく伸びることで増収増益、BPは横ばいを見込む
- 海外については中国は底堅く推移、タイは黒字化までには相応の時間が必要と見込む
- APの環境対応製品であるフォームド装置は順調に伸びており、来24/3期の販売台数は52台（今23/3期見込み19台）、売上高は9.3億円（同3億円）の見通し

現時点での来期 2023 年 4 月以降の 1 年間の見通しについて、ポイントをお話いたします。

今年度末、この 3 月末の受注残高の現時点における見込みです。これは過去最高になる見込みです。数字で申し上げますと 187 億円、これは前年度比プラス 22 億円を予想しております。来期に関しては増収増益を見込んでおります。

過去2年間、鋼材価格の高騰により、利益を圧迫されてきました。鋼材価格につきましては、昨年の夏以降、ある程度ピークをつけたかなと、高止まり感が出てきております。一部モーターであったり、電子部品関係については引き続き値上がりが続いておりますけれども、主要な原材料であります鋼材、これに関してはある程度来期は値上がりはないかと、原材料費の高騰による利益の下押し要因はないものと見込んでおります。

それから、セグメント別では、来期はAPが国内、大きく伸びると見ております。それからBPに関して、横ばいここでは表記しておりますけれども、最低でも横ばい、感じ的には今期より来期のほうがBPもいいのではないかと見ております。

海外です。海外については、中国は底堅く推移をするのかなと見ております。一方で、今後われわれが注力をしていきたいASEANの事業で、タイに関してですが、残念ながら今期の決算においては赤字を計上することになっております。コロナの影響で立ち上げに1年以上、予定よりも遅れたという問題はあるんですけれども、黒字化までには当初の想定よりももう少し時間がかかるかなと予想をしております。

あとは、われわれの現在研究開発に注力しております環境対応製品です。製品として実際に売上がどんどん上がってきているのが、中温化合物を製造するためのフォームド装置です。これについては順調に伸びております。今期で、大体台数で約20台、売上で約3億円を見込んでいるんですけれども、来期に関してはこれの3倍、台数で52台、売上9億3,000万円程度を今は見込んでおります。

2022年度 3Q業績ハイライト(1)



対前年同期実績

- ▶ 売上高 : AP事業 △2.8億円、BP事業 △6.3億円、環境搬送事業 △0.5億円、その他事業 +9.3億円(宇部興機を除くと△1.7億円)
- ▶ 営業利益: 原価率アップ、研究開発費、人件費の増加、宇部興機とNICの販管費増加により減益
- ▶ 経常利益: 営業利益の減少により減益
- ▶ 受注高 : AP事業 △3.7億円、BP事業 △5.2億円、環境搬送 △1.0億円、その他事業 +20.6億円(宇部興機を除くと+3.5億円)
- ▶ 受注残高: AP事業 △5.9億円、BP事業 +13.6億円、環境搬送 △0.7億円、その他事業 +25.2億円(宇部興機を除くと+4.4億円)

	2021年度		3Q実績	前年同期比	2022年度			通期予想	4Q予想
	3Q実績	3Q(累計)実績			3Q(累計)実績	対前年同期比	通期予想進捗率		
売上高	8,157	27,165	8,369	+212 +2.6%	27,129	△36 △0.1%	64.6%	42,000	14,871
営業利益	59	1,027	△32	△91 △0.4%	367	△64.3%	21.6%	1,700	1,333
営業利益率	0.7%	3.8%	△0.4%	△1.1pt	1.4%	△2.4pt	-	4.0%	9.0%
経常利益	89	1,194	△19	△108 △0.2%	529	△665 △55.7%	28.6%	1,850	1,321
親会社株主に帰属する当期純利益	16	883	△35	△51 +109.4%	224	△659 △74.6%	18.7%	1,200	976
受注高	9,344	28,146	10,268	+924 +9.9%	29,217	+1,071 +3.8%	66.1%	44,210	14,993
受注残高	15,342	15,342	18,560	+3,218 +21.0%	18,560	+3,218 +21.0%	-	18,700	18,700

売上、営業利益、経常利益、受注高、受注残高のまとめたものでございます。

右端に4Qの予想という数字を入れさせていただいております。この数字ができれば通期の予想数値、達成ということです。現状に関して、ほぼ通期の予想の数値に近いところに行くのかなと。言葉を換えて言えば、4Qの売上高148億円、営業利益13億円、こういったところは達成がほぼ可能かなと現時点で見えております。

2022年度 3Q業績ハイライト(2)



(単位:百万円)

		2021年度			2022年度				
		3Q実績	3Q(累計)実績	通期実績	3Q実績	前年同期比	3Q(累計)実績	前年同期比	通期予想
AP関連事業	売上高	4,176	13,365	18,328	4,433	+257 +6.2%	13,085	△280 △2.1%	20,000
	営業利益	△61	327	562	107	+168 △275.4%	239	△88 △26.9%	550
	営業利益率	△1.5%	2.4%	3.1%	2.4%	+3.9pt	1.8%	△0.6pt	2.8%
BP関連事業	売上高	1,690	7,279	10,840	1,330	△360 △21.3%	6,644	△635 △8.7%	10,500
	営業利益	58	667	1,123	2	△56 △96.6%	507	△160 △24.0%	1,050
	営業利益率	3.4%	9.2%	10.4%	0.2%	△3.2pt	7.6%	△1.6pt	10.0%
環境及び搬送 関連事業	売上高	614	2,195	3,018	916	+302 +49.2%	2,138	△57 △2.6%	2,500
	営業利益	136	379	588	82	△54 △39.7%	318	△61 △16.1%	500
	営業利益率	22.1%	17.3%	19.5%	9.0%	△13.1pt	14.9%	△2.4pt	20.0%
その他事業	売上高	1,678	4,325	6,660	1,688	+10 +0.6%	5,259	+934 +21.6%	9,000
	営業利益	306	623	1,073	163	△143 △46.7%	416	△207 △33.2%	1,100
	営業利益率	18.2%	14.4%	16.1%	9.7%	△8.5pt	7.9%	△6.5pt	12.2%

▶ AP関連事業売上高 : 国内製品売上高:対前年同期比△22.2%、メンテナンスサービス:△9.7%、海外売上高:+23.4%
▶ BP関連事業売上高 : プラント製品売上高:対前年同期比△21.8%、メンテナンスサービス:+7.1%
▶ 環境及び搬送関連事業 : 環境製品:△10.6%、搬送製品:前年並み
▶ その他事業売上高 : モバイルプラント:対前年同期比+19.2%、防水板:△54.5%、仮設機材:△4.8%、破碎機:+19.5%
土農工具:+5.7%、宇部興機:新規11.1億円取り込み

www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2022 All rights reserved.

8

続きまして、セグメントごとにご説明を申し上げます。

まず、APです。2022年度の3Qの実績です。真ん中辺の列ですけれども、売上が44億3,300万円で利益が1億700万円という結果になりました。この数字を牽引いたしましたのは中国でございます。前年同期は赤字、マイナス6,100万円でしたけれども、今期はプラスとなりました。

現時点では通期予想といたしまして、売上で200億円、営業利益で5億5,000万円。一方で9カ月間の現時点での数字ですが、130億円の売上、利益は2億3,900万円ですから、この差分が4Qで達成できるかということでございます。

前年は4Qの売上、利益が、例えば売上で申し上げますと50億円積み上がっています。利益に関しては2億5,000万円程度です。昨年よりはいいかなとは思っておりますけれども、APに関しては、この通期予想の200億円の売上、営業利益の5億5,000万円、もう一息というところでございます。

続きまして、BP です。BP の 3Q、3 カ月間の単独の数字といたしまして、売上が 13 億 3,000 万円、利益が 200 万円、これは前年と比べると売上也利益も、それから利益率に関してもよくないということになっております。

ただ、先ほど申し上げましたように、BP の製品の売上が今期は 4Q に集中をしております。通期の見込み、売上 105 億円、利益は 10 億 5,000 万円、3Q までの累計の数字との差分が 4Q の見込みですが、この差分については、ほぼ数字としては見えている、オーバーするのではないかなと見ております。

続きまして、環境及び搬送関連事業です。売上こそ昨年を上回る 9 億 1,600 万円になりましたけれども、残念ながら利益は昨年を下回っております。逆に昨年の同時期が、環境関連の製品で利益率の高いものが入っていた、それが今期はなく、利益率が昨年と比べると悪かったということです。

このセグメントに関しては、通期 25 億円、営業利益 5 億円、これに対して第 3 四半期までで売上 21 億円、利益も 3 億 1,800 万円になっております。売上に関してはオーバーするかなと見ております。利益は、ほぼ通期予想の数字で着地と見ております。

続きまして、その他の事業です。売上、3Q は 16 億 8,800 万円、営業利益 1 億 6,300 万円で、売上はほぼ前年並みですけれども、利益がほぼ半分になっております。こちらの一番大きな要因は、防水板の売上が下がったということです。防水板事業は利益率が高いということがございまして、その影響が利益の減で現れております。

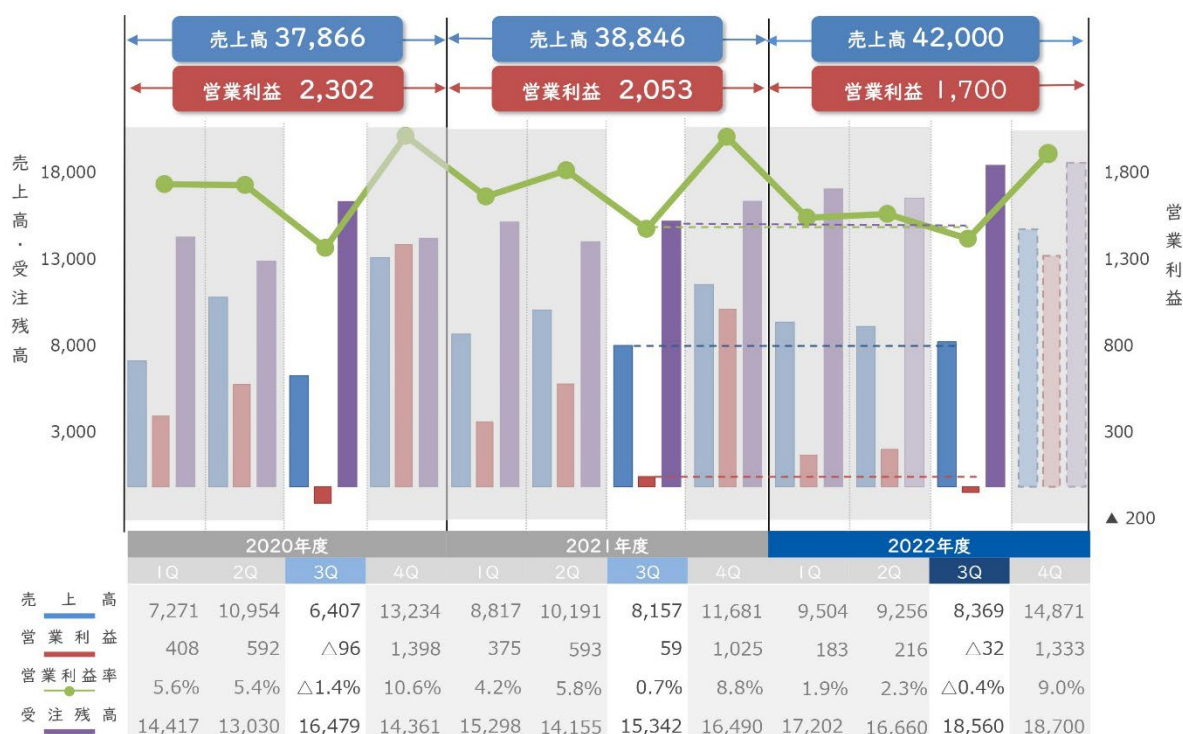
その他事業の通期の予想です。売上が 90 億円、営業利益が 11 億円で、この 3Q までの累計との差額の、例えば売上でいうと約 40 億円、営業利益でいうと約 7 億円で、昨年と比べると 4Q で頑張らねばならないという数字にはなっています。昨年と違うのは、今期から連結に加わりました宇部興機の数字が、宇部興機はわれわれが買収する前から、4Q に売上、利益が集中している会社でございまして、その分が乗っかってくるということと、例年水門の売上が、これもまた公共工事という関係で第 4 四半期に集中しております。これらを加えると、現時点では売上、利益、もう一息というところではあるんですけれども、大きく未達はないと見ております。

2022年度 四半期毎業績推移



四半期別売上高・営業利益推移

(単位:百万円)



www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2022 All rights reserved.

9

本当に第4四半期で通期の予想数値ができるのかを、過去2期分の数字と比較をしてご説明をしようと思って、毎回このような表を作っております。

今期に関しまして、第4四半期で必要になってくる売上が148億円、営業利益で13億円になります。前年同期は売上が116億円で営業利益が10億円、もう1年前は売上132億円、営業利益13億円ですので、2020年度と変わらない売上、利益を達成できれば、今期の通期の予想数値は達成になります。

今期に関しては昨年と違うのは、宇部興機で第4四半期だけで売上で約10億円、営業利益で1億円程度は積み上がってきますので、通期の全体の数字については、現時点ではほぼ予想数値に近いところで着地できるのではないかと考えております。

3Q受注高（累計）推移



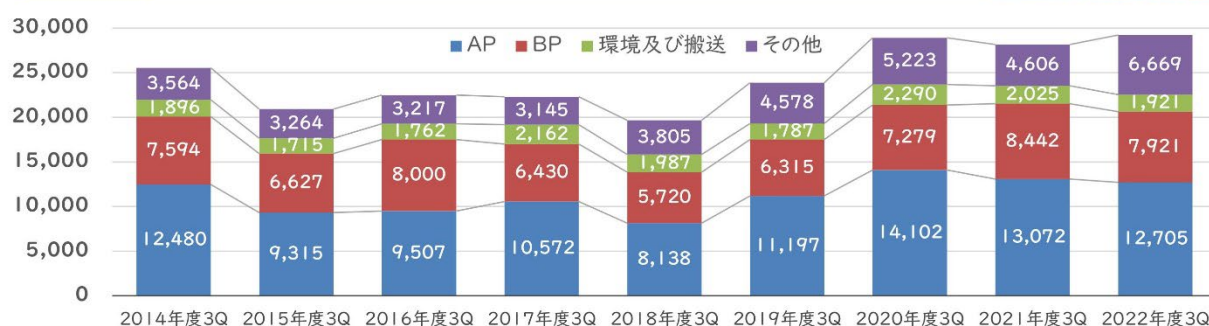
3Q推移

(単位:百万円)

	2014年度 3Q	2015年度 3Q	2016年度 3Q	2017年度 3Q	2018年度 3Q	2019年度 3Q	2020年度 3Q	2021年度 3Q	2022年度 3Q	対前年同期比
AP	12,480	9,315	9,507	10,572	8,137	11,197	14,102	13,072	12,705	△2.8%
BP	7,594	6,627	8,000	6,430	5,720	6,315	7,279	8,442	7,921	△6.2%
環境及び搬送	1,896	1,715	1,762	2,162	1,987	1,787	2,290	2,025	1,921	△5.1%
その他	3,564	3,264	3,217	3,145	3,805	4,578	5,223	4,606	6,669	+44.8%
計	25,533	20,920	22,486	22,309	19,650	23,877	28,894	28,146	29,217	+3.8%

通期推移

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 見込み	対前年通期比
AP	17,114	16,553	16,718	17,182	18,884	16,133	20,279	18,180	21,275	+17.0%
BP	10,069	9,517	9,966	9,066	8,438	9,478	9,961	12,086	10,945	△9.4%
環境及び搬送	2,711	2,796	3,203	2,948	2,773	2,402	2,875	3,014	2,369	△21.4%
その他	4,606	4,203	4,248	4,420	5,008	5,903	6,894	8,056	9,623	+19.5%
計	34,501	33,069	34,134	33,617	35,104	33,916	40,009	41,337	44,210	+7.0%



www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2022 All rights reserved.

10

続きまして、3Qまでの累計の受注高の今期の数字を、過去8年間と比べてみていただければということで、このような表を作っております。

今期の3Qまでの累計の受注額が292億1,700万円で、これは過去最高です。もっともこの中に宇部が入っておりますので、2021年度、2020年度並みでございますが、見ていただければ明らかのように、2020年度以降大きく伸びているというのは分かっていただけるかなと思います。

通期見込みをその下に入れております。全体では442億1,000万円になる見込みです。第3四半期まででは、昨年と比べると10億円ぐらい凌駕しているにとどまっているんですけども、第4四半期でAPの国内の受注で大きなものが見込まれております。これらが入る関係で、APの通期の受注額としては221億円で、昨年よりは30億円ぐらい受注が伸びる見込みです。

一方で、BPは昨年の数字が高かったので下回る109億円ですが、この109億円という数字も、過去の数字と比べるといい数字と思っております。環境・搬送は23億円、その他は96億円と、このように見ております。

3Q末受注残高推移



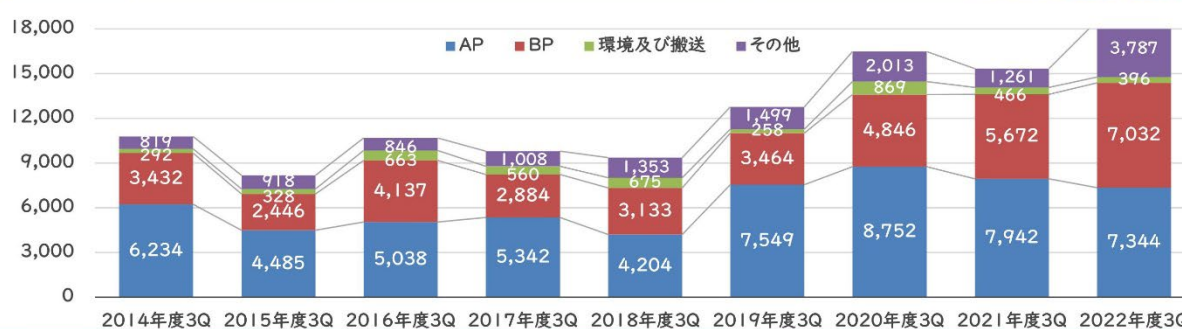
3Q推移

(単位:百万円)

	2014年度 3Q	2015年度 3Q	2016年度 3Q	2017年度 3Q	2018年度 3Q	2019年度 3Q	2020年度 3Q	2021年度 3Q	2022年度 3Q	対前年同期比
AP	6,234	4,485	5,038	5,342	4,204	7,549	8,751	7,942	7,344	△7.5%
BP	3,432	2,446	4,137	2,884	3,133	3,464	4,845	5,672	7,032	+24.0%
環境及び搬送	292	328	663	560	675	258	869	466	396	△15.0%
その他	819	918	846	1,008	1,353	1,499	2,013	1,261	3,787	+200.3%
計	10,777	8,177	10,684	9,793	9,364	12,770	16,479	15,342	18,560	+21.0%

通期推移

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 見込み	対前年通期比
AP	6,728	6,218	6,357	6,359	8,809	7,424	8,235	7,725	9,000	+16.5%
BP	3,467	2,741	3,350	2,895	3,440	3,760	4,508	5,755	6,200	+7.7%
環境及び搬送	309	815	1,371	387	385	152	634	631	500	△20.8%
その他	535	436	551	491	821	883	981	2,377	3,000	+26.2%
計	11,039	10,212	11,629	10,132	13,455	12,219	14,361	16,490	18,700	+13.4%



www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2022 All rights reserved.

11

来期の数字を占う上で重要になってきますのが、期末時点の受注残高になります。下の表、通期といいますが、3月末時点の受注残高の見込みについてご説明をいたします。

APの受注残高が90億円、BPが62億円、環境・搬送が5億円、その他が30億円で、全体では187億円を見込んでおります。

22年度の3Q末時点の注残が185億6,000万円ですので、この4Qの3カ月間でBPを主体に大きく売上が増えて、受注残高はその分減るんですけども、一方でAPの国内の受注が大きく伸びる関係で、受注残高で言うと、今期末の数字は高い数字、従いまして来期の発射台としては高い数字でスタートができると見ております。



▶ 受注高

- ・対前年同期比 Δ2.8%

(要因)

- △要因 国内:道路会社の設備投資が鈍化し計画遅延
- 中国:商談は依然多いものの、新型コロナ規制により商談が進捗せず、3Qは2台、396百万円の受注。(前期3Q 5台 1,075百万円)

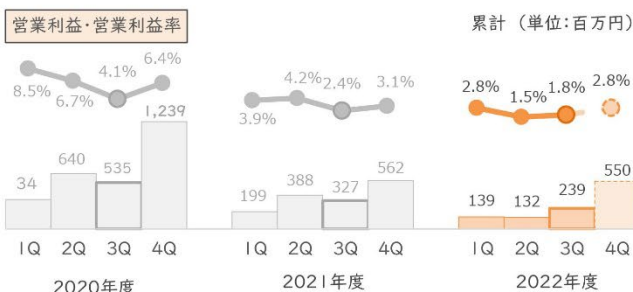


▶ 売上高

- ・対前年同期比 Δ2.1%
- ・国内売上高:対前年同期比 Δ14.3%
- ・海外売上高:対前年同期比 +23.4%

(要因)

- ・国内:道路会社の設備投資・メンテナンスの抑制と各種部品の長納期化により売上低調
- ・海外:中国:3Qは、遅延していた工事が再開し順調に進捗したことから、3Q単独では前期同期1,275百万円に対し2,081百万円と大幅に増加
- タイ:観光客は回復基調となるも5月の首相再選に向けてビジネスは停滞



▶ 営業利益

- ・営業利益 :対前年同期比 Δ26.9%
- ・営業利益率 :対前年同期比 Δ0.6pt

(要因)

- ・国内:マージン率改善も売上減により営業利益は伸びず
- ・中国:3Qは値上げの効果と鋼材価格が軟化したのに加え、ゼロコロナによる行動規制で経費が減少したことから、営業利益は増加した。

ここからはセグメントごとの説明を、詳しくさせていただきます。まず、APの事業です。

受注高です。今期3Qまでの累計としては127億円ですが、通期では190億円を見込んでおります。3Qまでは国内の道路会社の設備投資の鈍化によりまして、サービスの受注が減少しております。4Qには来期以降に売上が上がる大型製品の受注が伸びると見込んでおります。

売上高です。今期3Qまでの売上高は130億8,500万円で、昨年を若干下回るとい数字になっております。繰り返しになりますけれども、一番大きな要因は、国内のメンテナンスの売上が低調であるということでございます。

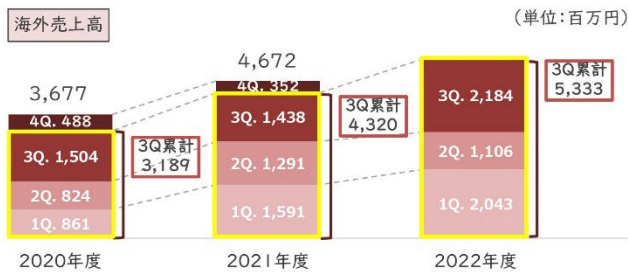
海外に関しては、中国は3Qに関しては高い数字が上がっております。一方でタイに関しては、タイの経済自体は観光のところは戻ってきているようですが、全般的にはまだ引き続き停滞ということで、目論んでいたよりはスローな状況です。

利益に関してです。3Qまでの数字としては、今期は2億3,900万円、利益率が1.8%で、昨年も決まっていた数字ではなかったんですけども、昨年をさらに下回るとい数字に今のところなっております。



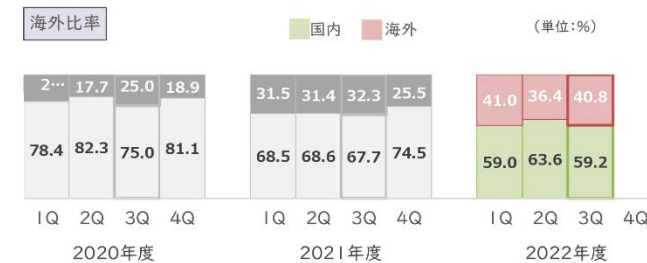
国内

- ・プラント製品、対前年同期比 $\Delta 22.2\%$
- ・メンテナンス、対前年同期比 $\Delta 9.7\%$



海外売上高

- ・対前年同期比 $+23.4\%$
- ・輸出：311百万円 (対前年同期比 $\Delta 48.2\%$)
- ・中国：4,675百万円 (対前年同期比 $+31.8\%$)
- ・タイ：347百万円 (対前年同期比 $+200.8\%$)
- ※中国：ゼロコロナ政策による規制が各地で行われたことから、2Q売上予定物件が3Q遅延したこともあり、3Q売上高は大幅に増加
- ※タイ：上期3台売上も下期は売上ゼロの見込み
下期に来期向けを3台受注
内1台はタイ初となるリニューアル案件の受注
来期に大規模プロモーションセールを実施
受注が伸びていない状況であるがASEANハブ工場の体制は整いつつある
- ※輸出(台湾他)
コロナ前に戻りつつあり、台湾・メンテナンス部品が復調、円安によりシステム商談も増加



海外受注高・受注残高

	受注高	受注残高
中国(日工上海)	32.6億円 ($\Delta 5.3\%$)	15.5億円 ($\Delta 40.4\%$)
タイ販売会社(NAT)	1.2億円 ($\Delta 50.0\%$)	0.8億円 ($\Delta 62.8\%$)

続きまして、国内と海外に分けてご説明をいたします。

まず、APの国内の売上高です。3Qまでの累計の数字としては今期77億円で、前年よりは13億円ぐらい減少しております。製品もメンテナンスもともに減少しているという状況です。

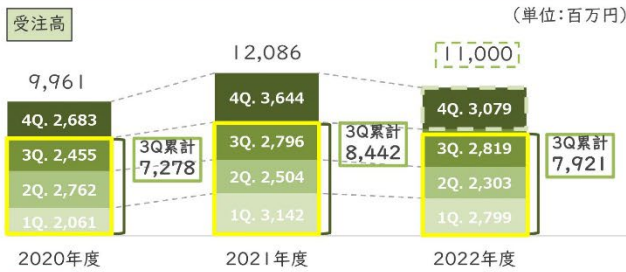
一方で、海外です。海外に関しては、20年度の31億円、昨年度の43億円、今期の53億円で、順調に右肩上がりが増えてきております。

今期の53億円の第3四半期までの数字の内訳です。輸出が3億1,100万円、中国が46億7,500万円で、前年よりも31%増えております。タイが3億4,700万円で、率で言えば200%の増ですけども、われわれが計画をしていた数字と比べると、残念ながら低調に推移をしているという状況です。それから、輸出ですけども、今期に関しては台湾向けの輸出が良かったという状況です。

APに関しての海外の売上比率です。今期は3Qまでで国内が59%、海外が40%で、特に中国の売上の伸びが貢献をしている状況でございます。

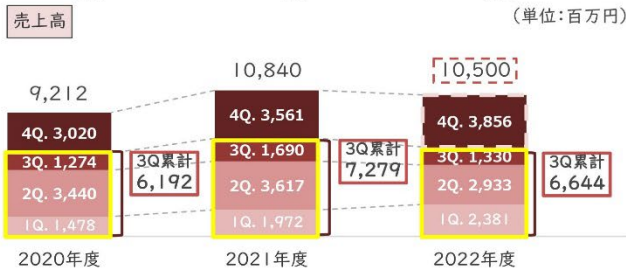
それから、受注残高に関してです。中国の日工上海が、前年同期と比較すると減少しております。

それから、タイに関しては昨年と比べると半減をしている状況でございます。



▶ 受注高
・対前年同期比 $\Delta 6.1\%$

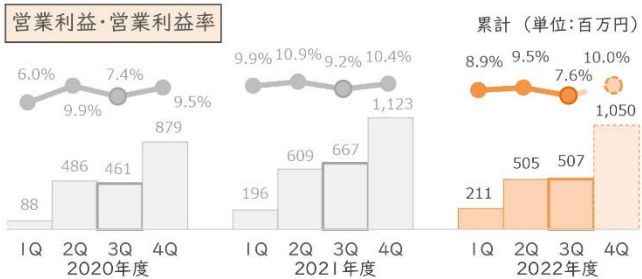
(要因)
・受注状況は前年同期同様となったものの前年度より大型案件が少なく受注高は減少
・原材料高騰による生コン価格の値上げ等によりユーザーの高い投資意欲は継続



▶ 売上高
・対前年同期比 $\Delta 8.7\%$

- ・プラント製品: 対前年同期比 $\Delta 21.8\%$
- ・メンテナンス: 対前年同期 $+7.1\%$
- ★今期は4Qに売上予定案件が集中

(要因)
・8月の盆工事に引き続き第3四半期も前年同期より納入案件が減少



▶ 営業利益
・営業利益 : 対前年同期比 $\Delta 24.0\%$
・営業利益率: 対前年同期比 $\Delta 1.6\text{pt}$

(要因)
・売上高の減少により営業利益が減少

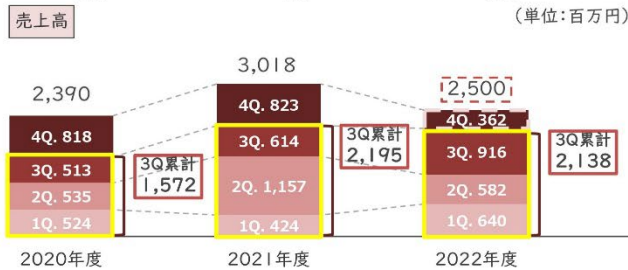
続きまして、BP に関してです。

まず、受注高です。3Q までで 79 億円で、昨年よりは 5 億円ぐらい下回っております。大型案件が昨年と比べると少なかったのかなと思いますけれども、生コン価格が引き続き値上げが行われているということで、われわれのお客様は値上げが通っているということもありまして、引き続き設備投資に対する意欲は高い水準で続いているとわれわれは見ております。

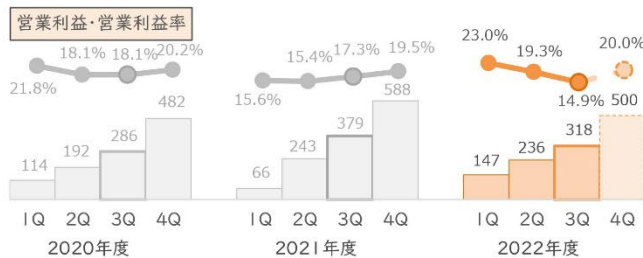
一方で売上高です。今期の 3Q までの累計は、売上 66 億 4,400 万円で、受注同様、売上高も減少しておりますけれども 3Q 末で受注残高が積み上がっております。4Q で売上が大きく伸びるという見込みでございます。



▶ 受注高
 対前年同期比 $\Delta 5.1\%$
 (要因)
 環境製品:前年同期より、大型物件が減少



▶ 売上高
 対前年同期比 $\Delta 2.6\%$
 (環境 $\Delta 10.6\%$ 、搬送 前年同期並み)
 (要因)
 ・制御部品の長納期化と鋼材高騰により大型案件等への投資意欲が減少



▶ 営業利益
 ・営業利益、対前年同期比 $\Delta 16.1\%$
 ・営業利益率 対前年同期比 $\Delta 2.4\text{pt}$
 (要因)
 ・大型案件の減により利益も減となる。

続きまして、環境・搬送です。

まず受注高です。19億2,100万円で、ほぼ前年並みと言えれば前年並みですけれども、前期と比べると環境製品で大型物件が今期は減少しているというのが特徴です。

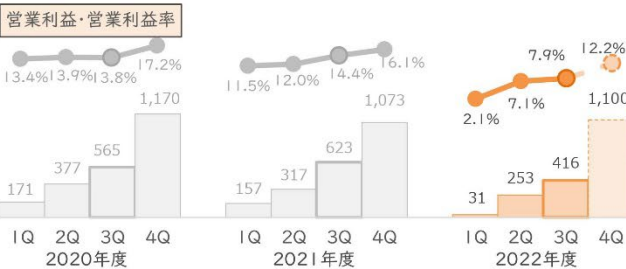
続きまして、売上高です。売上高はほぼ前年並みという状況です。



▶ 受注高
 ・セグメント全体対前年同期比 +44.8%
 ・宇部興機 1,706百万円を除くと 4,963百万円
 ・モバイルプラント(MP)事業
 2022年3月におこなった価格見直し前の駆け込み受注の反動により、受注台数は減少
 一方で値上げと大型機種種の販売促進により金額は増加
 2021年度 952百万円(22台)
 2022年度 1,043百万円(20台)



▶ 売上高
 対前年同期比 +21.6%(宇部興機を除くと△4.2%)
 +要因: ・宇部興機 1,113百万円今期より取り込み
 ・MP製品前年同期実績 953百万円(25台)
 →1,115百万円(24台)
 ・前川工業所(破砕機)
 前年同期比+42百万円
 △要因: ・資材高騰による建設遅延により
 防水板前年同期比 △357百万円



▶ 営業利益
 ・営業利益、対前年同期比 △33.2%
 (宇部興機を除くと、△33.7%)
 ・営業利益率、対前年同期比 △6.5pt

★その他事業の売上構成
 仮設機材 20.0%、防水板・水門 9.4%、
 土農工具 10.2%、モバイル21.2%、破砕機 4.9%、
 宇部興機 20.9%、開発製品 6.7%、他 6.8%

続きまして、その他の事業です。

まず受注です。これは66億6,900万円で、前年と比べると伸びております。もっともこの中には宇部が17億円含まれております。これを除いても49億円で、昨年と比べると伸びている状況です。モバイルプラント事業ですが、昨年の3月に価格見直しを行いました。その関係で駆け込み受注の反動がございました。そのため受注台数が減少したということがございます。

その他事業の売上高に関しては、今期は52億5,900万円で前年を大きく上回っておりますが。宇部の影響が大きかった関係で、それ以外はほぼ横ばいという状況です。

利益に関しては、今期は防水板の売上が低調ということもありまして、利益面では苦戦をしている状況でございます。

2022年度3Q(累計) 経常利益 増減要因分析



項目	影響額	内容
売上高減少	△10	売上高の減少(△36百万円)
原価率アップ	△57	原価率上昇
研究開発費増加	△88	開発費用の増加
減価償却費増加	△81	設備投資による増加
日工の人件費増加	△110	賃金アップ
宇部とNICの販管費増加	△233	宇部△144百万円 NIC△89百万円
その他販管費増加	△55	広告費、事務費、 旅費増加
のれんの償却費増加	△27	宇部△14百万円 NIC△13百万円
為替	+74	円安影響
その他営業外損益	△79	受取配当金減少等

www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2022 All rights reserved.

18

次に、経常利益の増減の要因分析でございます。

3Qまでで昨年の経常利益が11億9,400万円、今期が5億2,900万円で、6億6,500万円ほど利益が昨年と比べると減少しております。

要因としては、たくさん項目が挙がっております。売上高の減少による影響はわずかですが、原価率のアップのアップが影響しています。研究開発費の増加と減価償却費の増加、この二つの項目に関しては、これはわれわれは成長投資を今続けている過程ですので当然上がると。

さらに言いますと、日工の人件費が1億円以上増えております。これも賃金アップとここには書いておりますが、人員増もしており、その影響も出ております。こちらでも会社の成長のために、今、人に投資をしているということでございます。

それから、昨年と比べて大幅に販管費が増えているんですけれども、これは連結に今期から加わった宇部と、それから実質的に今期から連結に入ったNICで、タイの製造現法のことです。

あとは、その他の販管費、コロナが落ち着いたことによりまして旅費交通費であったり、広告費であったり、こういったものも増えております。

それから、のれんの償却費も 2,700 万円増えているという状況です。

2022年度通期 経常利益 増減要因分析(予想)



(単位:百万円)

項目	影響額	内容
売上高増加	+850	売上高の増加 +3,154
原価率アップ	△70	原価率の上昇 72.9% →73.1%
研究開発費増加	△130	開発費用の増加
減価償却費増加	△150	設備投資による増加
日工の person 費増加	△170	賃金アップ
宇部とNICの 販管費増加	△320	
その他販管費増加	△340	事務費、旅費増加
のれんの 償却費増加	△40	宇部△14百万円 NIC△26百万円
為替	-	
その他営業外損益	△54	前期の業務受託料 剥落

続きまして、通期における経常利益の見込みです。

前年が 22 億 7,400 万円、今期は 18 億 5,000 万円で、第 3 四半期時点よりは利益は昨年と比べると取り戻すという予想になっております。それでも昨年と比べると 4 億 2,400 万円の減益を見込んでおります。

通期で言いますと、売上が 31 億円増えるという予想です。これは BP の国内の売上が増えるということが一番大きな要因です。

一方で、原価率のアップ、研究開発費、減価償却費、それから person 費のアップ、NIC と宇部の販管費の増加、こういったものは第 4 四半期もさらに増えるといったところです。それから、販管費やのれんの償却も増えると予想をしております。

バランスシートの推移



(単位：百万円)

		2021年度末	2022年度3Q	増減	増減の主な要因
資 産	流動資産	34,127	33,927	△200	増加：電子記録債権 +152百万円 商品及び製品 +1,339百万円 仕掛品 +1,806百万円 その他 +663百万円 減少：現金及び預金 △1,518百万円 売掛金 △2,459百万円 原材料及び貯蔵品 △183百万円
	有形固定資産	10,669	11,419	+750	増加：建物及び構築物 +136百万円
	無形固定資産	1,036	1,088	+51	土地 +259百万円 その他 +139百万円
	投資その他	6,246	6,192	△54	建設仮勘定 +362百万円 減少：繰延税金資産 △139百万円
	総資産合計	52,079	52,627	+547	
負 債	流動負債	15,774	16,291	+516	増加：電子記録債務 +295百万円 短期借入金 +751百万円 契約負債 +745百万円 長期借入金 +896百万円 減少：支払手形及び買掛金 △305百万円 未払法人税等 △327百万円 未払金 △278百万円 賞与引当金 △309百万円
	固定負債	4,254	5,185	+931	
純資産合計		32,050	31,150	△899	減少：利益剰余金 △923百万円
1株当たり純資産 (円 銭)		837.22	813.77	-23.45	

www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2022 All rights reserved.

20

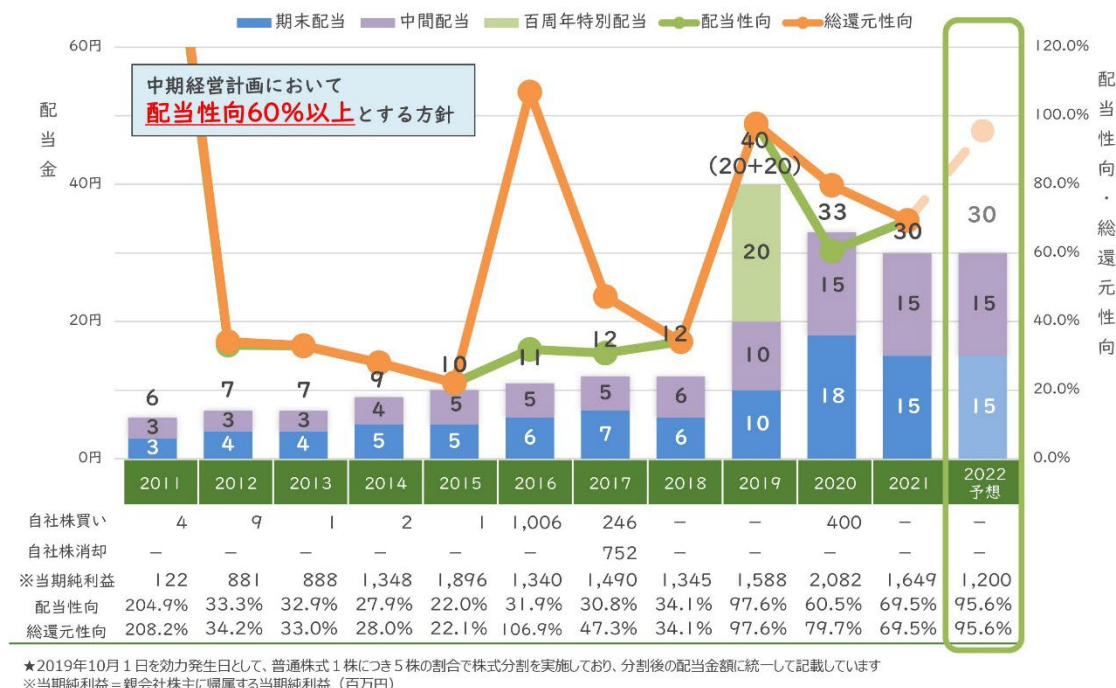
簡単にバランスシートの推移についてお話をいたします。これは前年度末と、この3Q末の比較でございます。

総資産は増加が5億4,700万円で、率で言うと約1%総資産が増えております。流動資産は減少しておりますけれども、有形固定資産が7億5,000万円増えております。こちらはタイへの投資を含め、積極的に投資をしている関係で有形固定資産が増えております。

負債は流動負債、固定負債とも、季節性の要因もありますけれども、それぞれ5億円、9億円増えております。一方で、純資産は前期末と比べると8億9,900万円の減で、3Qが終わったところの純利益の水準が低かったために、配当による流出を考えると、現時点では約マイナス9億円になっております。この結果、1株当たりの純資産が2022年12月末では、813円になりました。

● 株主還元の強化

□ 2023年3月期の配当金30円(中間15円、期末15円)
(配当性向95.6%)予想



最後に、株主還元方針についてお話をいたします。

今期からスタートしました中期経営計画、今期は初年度に当たるわけです。この3年間に関しては、われわれは成長のステージと位置付けておりますけれども、株主還元に関しては、配当性向は60%以上を維持するという方針を出しております。

今期に関しては、利益の面では苦戦をしております。今のところ純利益12億円の予想です。ただ、配当については、前年の2021年度と同様、年間配当は30円、据え置きという方針に変更はございません。30円の配当になりますと、配当性向は95.6%で、ほぼ100%の配当性向になるわけですが、この配当30円については変更はなしでございます。

私からの説明は以上とさせていただきます。

質疑応答

[Q]：4QにAPの国内大口受注が入るとのことですが、このマージンは大丈夫でしょうか。原材料費値上げは、ほとんど転嫁されていると考えてよろしいですか。

[A]：マージンについて、大口の案件は総じて従来からマージン率が低いということでご心配をされている。原材料費の値上がり部分が転嫁されていないのではないかとのご心配の質問とと思います。

マージン率に関して言うと、赤字の受注はない見込みです。ただ、大型物件の受注ということで、マージン率は少し低めですが、今のところ赤字受注の予定はありません。

原材料費の値上がり分の価格転嫁については、鋼材価格が上がり始めた2021年度から、毎月見積りの見直しをしており、現時点における材料費、原材料費を反映した原価でお客様と価格交渉をしており、原材料費の値上がり部分はカバーされています。

受注をしてから実際にお客様に納品するまで特にAPに関しては1年半から2年ぐらいかかりますが、この間に原材料費が上がったものの価格転嫁は難しい。

原材料価格が下がった場合には、その値戻しをすることはなく原材料の価格が、特に鋼材に関して、ほぼ昨年秋ぐらいでピークはつけたと見ておりますので、あまり来期に関してはここの部分は心配をしておりません。

[Q]：APのフォームド装置が来期に売上が大幅に伸びるとのことですが、以前説明会でお話しされていた規制緩和が地方に広がったのでしょうか。

[A]：東京都で中温化合物の規制緩和され、全国で使用されるような状態になっている。

われわれもCO₂の削減、ゼロエミッションに向けて企業努力をしておりますけれども、お客様である道路会社に関しては、同様にCO₂の削減に向けての対策などこの分野に関しては非常に関心が高い状況です。将来的には、APの燃料転換があるんでしょうけれども、その通過点、途中段階で各社さんとも少しでもCO₂を削減できることはないかという中で、中温化合物に対する需要、これをつくるための装置としてのフォームド装置が非常に今のところお客様から評価をいただき、たくさんの引き合い、今期末において来期年間50台ぐらいの売上見込みはほぼ見えるだけのお話をいただけている状況です。

[Q]：フォームド装置の競合もAPと同じと考えてよろしいでしょうか。

[A]：われわれはプラントで競合している企業とフォームド装置に関してほぼバッティングはしておりません。他社です。

[Q]：来期業績のご説明をいただきましたが、経常利益ベースの増減分岐の項目別に、来期は増える減る程度で構いませんので、項目別にご説明をいただけないでしょうか。

[A]：プラスで一番大きいのは売上高の増加です。ここは、今の時点で数字を具体的に申し上げるのは適切ではないと思いますので、数字については控えます。来期に関しては受注残高の今期末の数字と前期末の数字を比較していただければ、それにほぼ匹敵するだけの全体での売上増はあるかなと見ております。

一方で、原価率のところに関しては、来期は今期と比較をすると、むしろ若干改善の方向で少なくとも原価率が悪化するということはないかなと見ております。

研究開発費、減価償却費、それから人件費に関してです。23年度に関しては、若干22年度よりも研究開発費、減価償却費共に増えるかもしれませんが、22年度と23年度を比較した場合に、大きくマイナス要因として効いてくることはありません。

それから、日工の人件費の増加に関しては、ここは今期も前期と比べるとかなり増えておりますけれども、来期に関しても賃上げをいたします。それから人員も約7~8%ぐらい現在の従業員数に対して増える見込みですので、ここは来期も今期と比べて同水準、場合によってはもうちょっと増えるかなと思っております。

その次の項目の宇部とNICの販管費の増加に関しては、これは今期だけの特殊要因ですので、来期は発生いたしません。

それから、その他の販管費の増加に関しては、コロナによる営業の制約は、来期はなくなるでしょうから、積極的な営業活動による販管費の増加は若干出るかもしれませんが、大きく今期と比べて増えるということはないかなと見ております。

のれんの償却費に関しては、これは毎年定額での償却ですので増加は発生しない。為替に関しては何とも言えないので据え置きといったところでしょうか。

まとめますと、来期に関して言うと、売上高の大幅増による利益増、それから今期、前期と比べて大きく利益のマイナス方向に働いた研究開発費、減価償却費はそれほど今期より来期は増えないので、そこのマイナス影響はない。日工の人件費の増加は、これに匹敵するぐらいが、今期と比較してのアップはあるかなと見ております。以上です。

[Q]：今後2～3年を見て、業績先行指標として注目しているものがあればコメントいただけないでしょうか。例えば、目先は公共工事の積算基準の見直し、中期的には大阪・関西万博など、何か注目されているイベントや指標があれば教えてください。

[A]：具体例で出されている大阪万博に関しては、確かにわれわれにとって来年度辺りは一つのフォローのイベントかと思っております。

国内のAP、BPに関して、事業環境を占う指標が何なのかはなかなか難しいところがあります。

APに関して言うと、新しい高速道路を含めた道路ができる時代ではなく道路舗装に使われるアスファルト合材の需要量、出荷量といったものは、横ばいないしは趨勢的には少しずつまだ減少していくのかなとは見ております。

むしろ、お客様である道路会社にとって、22年度は原料のアスファルトの価格の高騰によって、設備投資を抑制されましたので、原料のアスファルトの価格が下がることは期待できないのですが、お客様である道路会社の製品であるアスファルト合材の価格がどれだけ価格転嫁が進んでいくかには着目をしています。

合材は90%以上が公共工事として使われるので、多少の時間のずれ、遅れはあるとしても価格転嫁は徐々にされていくと思われま。そうすると、今年度先送りされた不要不急のメンテナンスの需要は消えてなくなるものではないので、間違いなく来年度以降は出てくると思っております。

BP、生コンに関しては、イベントがどれほどあるかということになると思いますが関西で言うところの万博ですけれども、東京、首都圏に関しては引き続き再開発がもう少し続くと思っております。

生コンの全国の総出荷量も、アスファルト合材と同様で、少しずつ減少している状況が続いています。長期的にも少しずつ減少していくと思っておりますが、お客様がどれだけ設備投資をできるような収益状況にあるかが大事です。

生コンの総需要量は、年々少しずつ減少はしているものの、価格転嫁は比較的順調にできています。生コン価格がどのように今後推移をするかについては、指標として眺める場合、重視しているポイントかと思っております。

(注)本質説明会と質疑応答の書き起こしは決算説明会に参加されなかった方への情報提供も含めておこなっていますが、その内容につきましては理解し易いように一部で加筆・修正していますことをご承知おき下さい。

日工株式会社 財務部 IR 担当